

教育長だより

No. 32

2023年2月22日

「大好き」の魔法をかけて

NPO 法人日本語検定委員会主催の「日本語大賞」で、小学校4年の安田彩乃さん(10歳、山口県敬愛小)が優秀の文部科学大臣賞を受賞されました。今日の市役所のiJAMP(時事通信社)に出ていましたので紹介します。

私には大切なものがたくさんある。おたん生日に買ってもらったシロクマのぬいぐるみ。いつも遊んでくれる、おとなりのお姉ちゃん。食いしんぼうの父が買って来てくれる、新発売のおやつ。ケンカをした後の、兄との仲直り。私はいつもこれらの「大切」にふれるたび、心の中でじゅ文を唱える。それは、「大好きだよ。」の言葉だ。この言葉を使うと、私の気分はそれまでの何倍もうんと明るくなる。この魔法のような言葉の力に、一番最初に気づかせてくれたのは、母だった。

母は今、入院している。でも、私はさびしくない。強がらなくていいんだよ、と父は心配してくれたけれど、大丈夫。理由の一つは、毎日母とテレビ電話ができるからだ。目の前にいなくても、画面を通して母の温かさを感じることができる。帰ってきたらいっぱいだっこしてね、なんて、いつもならはずかしくて言えないことも伝えることができる。でも、最大の理由は、私たちにはひみつのおまじないがあるからだ。それは、心が温かくなる言葉、「大好き」のやり取りだ。

母とはテレビ電話でたくさん話をする。その日学校であった楽しい話だけでなく、父のうっかり話や、兄のがんばりも話している。母がうれしそうに話を聞いてくれるから、私はますます楽しくなる。私は学校にいる時から、今日は何を話そうかな、とワクワクしている。話の種を探すことが楽しみで、母が入院する前よりも学校が好きになったくらいだ。

でも、母との楽しい時間はあっという間に過ぎてしまう。私は電話が終わるのがさびしくてたまらない。また明日もお話できると分かっているのに、いつも泣きそうになってしまう。そんな時、母はいつもこう言ってくれる。

「彩ちゃんの言葉は、ママを元気にしてくれる、魔法の言葉だよ。彩ちゃん、大好き。」

この言葉を聞くと、私はたちまち元気になる。私は、母の魔法使いなんだ。私はうれしくなって、母に必ずこう伝えている。

「私も、ママが大好き。今からママに、大好きの魔法をかけるよ。明日の夜まで有効だから、さびしくないよ。」

母はいつもとびきりの笑顔で聞いてくれる。

この「大好き」の言葉は、私と母の笑顔をつなぐ大切なじゅ文だ。もしかしたら私は、母だけじゃなく、自分にも魔法をかけているのかもしれない。会いたい気持ちを笑顔に変える、不思議な魔法。私は「大好き」を伝えるのがもっとも好きになった。

私はこれからも、「大好き」の言葉を大切なものに伝えていきたい。いつもいっしょだよ。ありがとう。これからもよろしくね。私の「大好き」には、いろんな気持ちがつまっている。私は今日も、「大好き」の魔法をかけて元気にすごしている。

素敵なお子関係ですね。振り返って、みなさんのクラスの子もたちと先生との関係はどうでしょう？

『大好きだよ。』っていい言葉ですね。とりわけ、課題の重い子と先生との関係で、こういう言葉があれば、きっといいクラスになっていることでしょう。他にも「信じてるよ」「待っているよ」「いいね」など、肯定的な言葉がたくさんあります。そんな言葉が飛び交っているクラスづくり、楽しみです。